

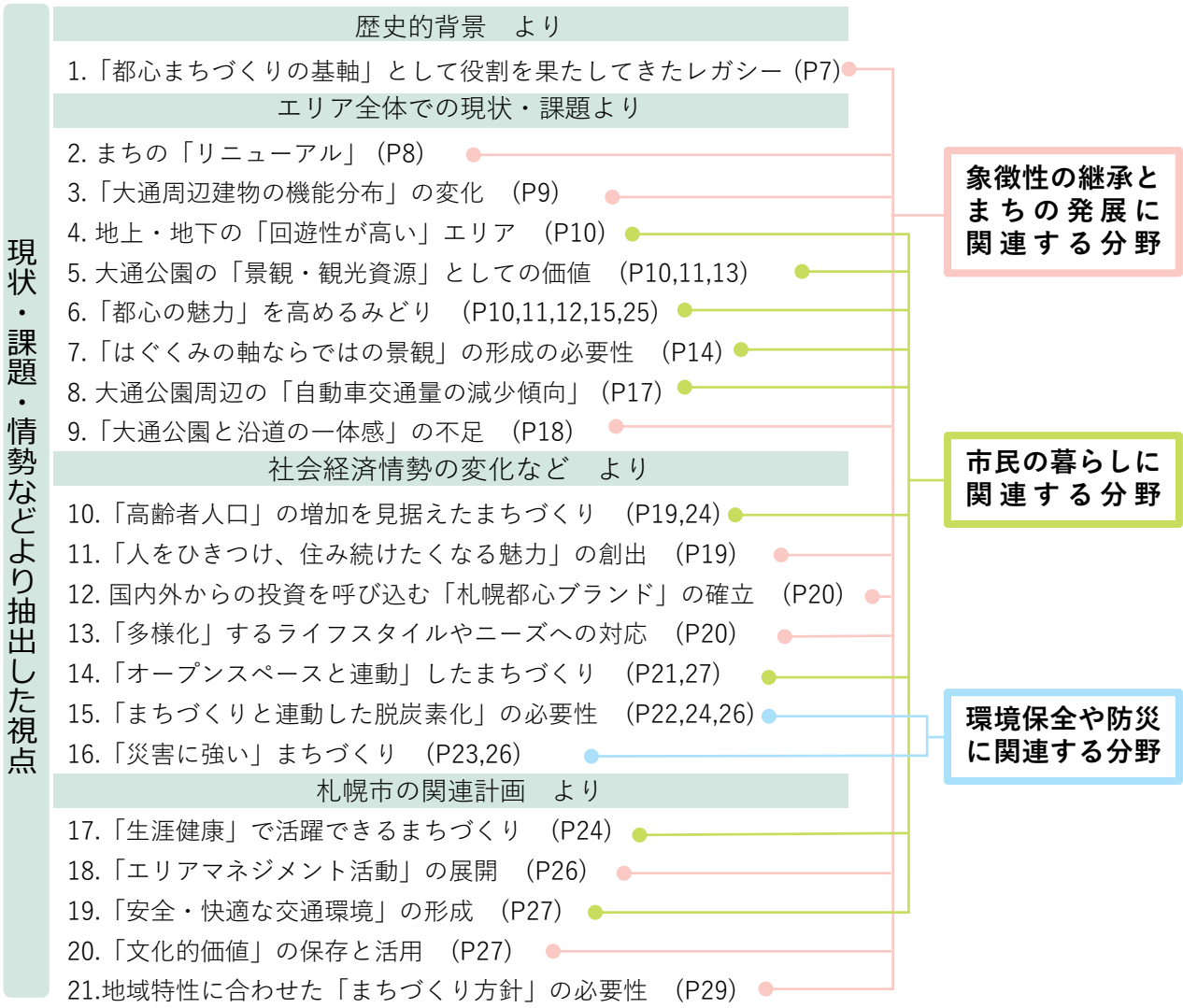
## 第3章 はぐくみの軸全体の強化方針

---

この章では、前章で、歴史的背景、エリア全体での現状・課題、社会経済情勢の変化、札幌市の関連計画などから抽出した視点を、関連性があるもの同士で分類し、そこから、はぐくみの軸全体の将来像を設定するための「重視する視点」を設定します。

その上で、「現状・課題・情勢などより抽出した視点」「重視する視点」「はぐくみの軸まちづくりの理念」を踏まえ、12の「目指すべき将来像」を設定します。

### 3-1. 重視すべき視点と目指すべき将来像



現状・課題・情勢などより抽出した視点を上記のとおり3つの分野に分類し、内容を要約してまとめ、目指すべき将来像の柱となる【重視すべき視点】とします。

#### 現状・課題・情勢などより抽出した視点の分析を踏まえた【重視すべき視点】の設定

象徴性の継承とまちの発展に関連する分野	市民の暮らしに関連する分野	環境保全や防災に関連する分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も「都心まちづくりの基軸」としての役割を担っていく</li> <li>・時代に合わせたまちづくりを進め、市民がはぐくみの軸を札幌ならではの貴重な財産として、より愛着を感じられるよう魅力を高めていくことが必要</li> <li>・高めた魅力を国内外に発信し、活力・投資を呼び込んでいくことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口の増加や、地方移住への関心の高まり、働く環境への意識の変化がある</li> <li>・みどりに囲まれ、誰にとっても安全・安心で居心地の良いはぐくみの軸ならではの都市空間を形成し、市民のより快適で豊かな暮らしを実現していくことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化とこれに伴う気候変動など地球環境問題は日々深刻化している</li> <li>・大地震や洪水といった自然災害への対応が求められていることから、はぐくみの軸の資源を活かした、環境にやさしく災害に強い、持続可能なまちづくりを進めていくことが必要</li> </ul>

視点Ⅰ  
市民の愛着の醸成と魅力の発信

視点Ⅱ  
より快適で豊かな暮らし

視点Ⅲ  
持続可能なまちづくり

「現状・課題・情勢などより抽出した視点」「重視する視点」「はぐくみの軸まちづくりの理念」を踏まえ、12の「目指すべき将来像」とその将来像を端的に表すキーワードを設定します。

### はぐくみの軸まちづくりの理念

## 象徴性の継承と新たな価値の創造

150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、  
100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”

重視  
すべき  
視点

踏まえる

### 目指すべき将来像

### キーワード

	目指すべき将来像	キーワード
Ⅰ 市民の愛着の醸成と 魅力の発信	1 はぐくみの軸がもつ札幌都心の象徴性が継承されている	象徴性の継承
	2 はぐくみの軸ならではの文化・魅力・活力を創造することで世界から投資や人材などを呼び込む好循環が形成されている	創造と交流の好循環
	3 はぐくみの軸らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている	魅力あるライフスタイル
	4 時代の流れに柔軟に対応した市民・企業・行政などの協働によるまちづくりが進められている	協働によるまちづくり
Ⅱ 豊かな暮らし より快適で	5 大通公園や大通沿道の公共的空間などが誰もが安心して利用できるユニバーサル <sup>25</sup> な空間となっている	ユニバーサルなまち
	6 訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている	心身の健康増進
	7 街区・道路・公園の一体感がある居心地がよく歩きたくなるまちが形成されている	居心地がよく歩きたくなるまち
	8 東西に長いはぐくみの軸を円滑に移動することができる	円滑な移動環境
	9 歴史的資源などを活かしたはぐくみの軸ならではの景観が形成されている	資源を活かした景観
	10 大通公園を中心に連続的にみどりの空間が形成されている	連続的につながるみどり
Ⅲ 持続可能な まちづくり	11 2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた先進的な取組が進められている	脱炭素化の推進
	12 はぐくみの軸の防災機能が強化されている	防災機能の強化

次ページより、この12の「目指すべき将来像」に紐づく、将来像実現のための取組の方向を示します。

<sup>25</sup>【ユニバーサル（ユニバーサルデザイン）】文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異や障がい・能力を問わずに利用できるよう配慮された設計（デザイン）。

## 3-2. 将来像実現のための取組の方向

### 1. 市民の愛着の醸成と魅力の発信

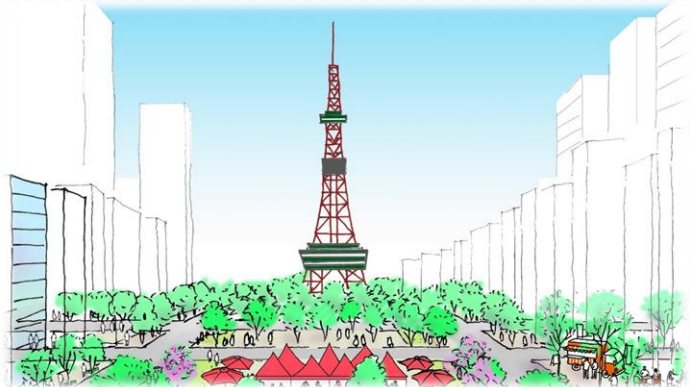


#### 将来像①【象徴性の継承】 はぐくみの軸がもつ札幌都心の象徴性が 継承されている

大通は札幌のまちづくりを支える基軸としての役割を果たしてきました。「歴史的資源」「大通を介した東西・南北のまちのつながり」「大通公園・大通・沿道建物が一体となった空間」などを札幌都心の象徴性に関連する要素と捉え、以下の取組を通じて機能の向上などを図ることにより、都心全体のまちづくりを連結させる軸としての役割と札幌都心の象徴性をより高めることを目指します。

#### <取組の方向>

- a：はぐくみの軸周辺にある歴史的資源の価値を保存・活用する。
- b：南北の回遊性向上や東西の軸性の強化を図る。
- c：大通公園・大通・沿道建物を一体的な空間として捉えられるような機能配置や運用ルールなどの仕組みの整備を行う。



#### 将来像②【創造と交流の好循環】 はぐくみの軸ならではの文化・魅力・活力を創造する ことで世界から投資や人材などを呼び込む好循環が形 成されている

はぐくみの軸は東西約2.5kmにわたっており、地域ごとに異なる特性を有していることから、様々な活動を受け入れる多様な空間の形成や都市機能の導入を図ることができる可能性を持っています。以下の取組により、様々な空間や機能が連続していくことで、はぐくみの軸ならではの都市のブランドが育ち、投資や人材などを呼び込んでいくことを目指します。

#### <取組の方向>

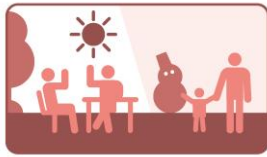
- a：公有地や低・未利用地の活用、既存の都市基盤<sup>26</sup>施設・公開空地<sup>27</sup>の利活用を図る。
- b：地域の特性を活かして、まちの魅力を高める活動の促進や、建物の用途・機能の誘導を図る。
- c：大通公園の魅力さをさらに高める。



<sup>26</sup>【都市基盤】道路、交通施設、上下水道、公園、河川、廃棄物処理施設、官公庁、学校、住宅、スポーツ施設などの都市を構成する基盤となる構造物。

<sup>27</sup>【公開空地】建築物の敷地内の一部などにおいて一般に開放された空地。





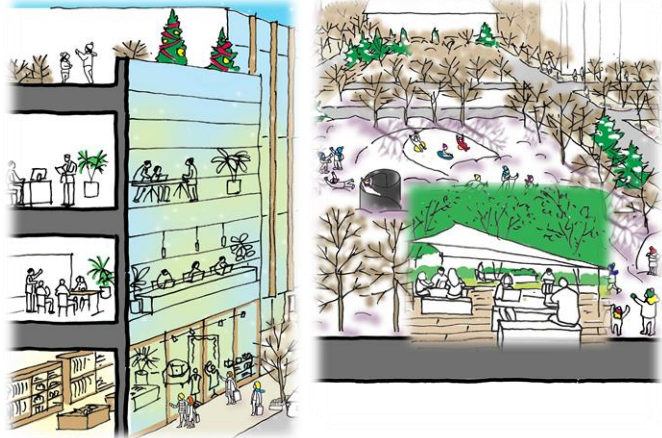
### 将来像③【魅力あるライフスタイル】

はぐくみの軸らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている

近年、生活環境に求められるニーズや個人のライフスタイルの在り方は多様化しています。日常的に訪れ利用する空間や大通公園に関する以下の取組が実現する事により、“はぐくみの軸らしい魅力的なライフスタイル”が定着し、そのイメージが広く醸成されていくことを目指します。

<取組の方向>

- a：四季を通じてだれもが利用でき大通公園との一体的な利用を意識した公共的空間を屋内外で創出し、日常利用の促進を図る。
- b：建物用途や設えの工夫により、大通公園やまちに開かれた空間を創出する。
- c：大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによるにぎわいの両立を図る。



### 将来像④【協働によるまちづくり】

時代の流れに柔軟に対応した市民・企業・行政などの協働によるまちづくりが進められている

まちの魅力を高めていくためには、既存の公共空間の柔軟な利活用を図るほか、施設整備などを検討する際には同時にその活用の在り方を探っていくことが必要です。以下の取組により、その場所をよく知った住民などの関係者と企業や行政などが協働して実験などを重ねることで、地域特性に馴染み、時代の流れに適応したまちづくりが進められることを目指します。

<取組の方向>

- a：市民・企業・行政などの協働による実証実験を展開しながら、施策の検討を進める。
- b：市民・企業・行政などの協働による活発なまちづくり活動を促進する。



## II. より快適で豊かな暮らし

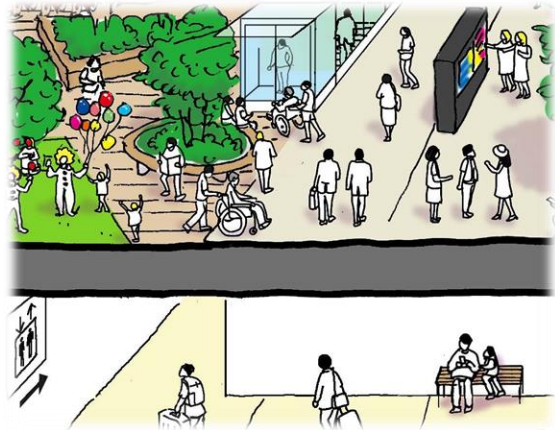


### 将来像⑤【ユニバーサルなまち】 大通公園や大通沿道の公共的空間などが 誰もが安心して利用できるユニバーサルな空間と なっている

はぐくみの軸は、地上には大通公園、地下には地下歩行空間や地下街があり、地上と地下の回遊性が高いエリアです。しかし、今後の高齢者人口の増加や生活スタイルの多様化などを見据えると、全ての人にとって快適な環境を整えていく必要があります。以下の取組により、誰もが安心して利用できる環境の整備を目指します。

<取組の方向>

- a：都市基盤施設を含む公共的空間や建物などのバリアフリー化<sup>28</sup>、利便性・快適性の向上を進める。

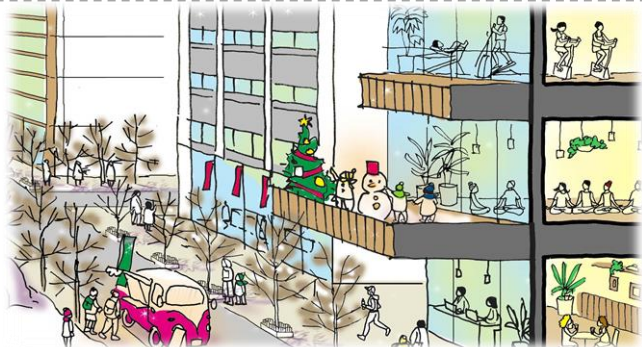


### 将来像⑥【心身の健康増進】 訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っ ている

生涯健康で活躍するためには、日頃からの心身の健康増進が重要です。以下の取組により、訪れる人が季節を問わず身体を動かすことができ、都心にいながら札幌の自然を享受できる環境を実現していくことを目指します。

<取組の方向>

- a：どの季節にも歩きやすい環境を創出し、心身の健康増進のため活用する。
- b：開発や建替に合わせて、大通公園の環境を建物内部に引き込む設えや、心身の健康増進に資する機能を導入する。



<sup>28</sup>【バリアフリー化】高齢者や障がいのある方などが社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段などの物理的な障壁のほか、制度面、文化・情報面や意識面のものを含めた全ての障壁をなくすことを意味している。なお、こうした障壁が除去された状態をバリアフリーという。



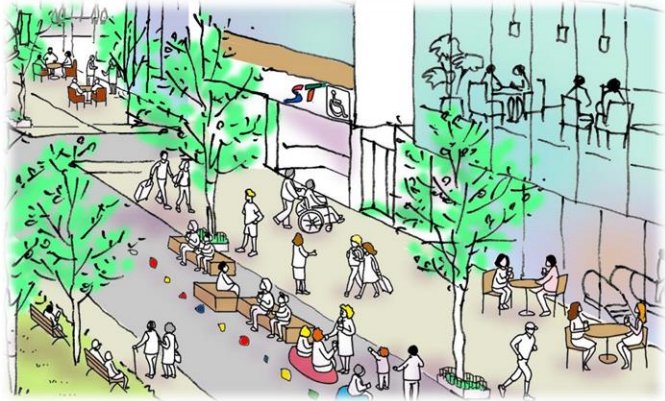


## 将来像⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】 街区・道路・公園の一体感がある居心地がよく 歩きたくなるまちが形成されている

大通沿道の建物は更新時期が近付いているものが多く、今後、建替が進んでいくことが見込まれます。その際にはオープンスペースや道路空間の在り方なども考慮した、歩行者の為の空間づくりが必要になります。以下の取組により、街区・道路・公園の一体感がある、居心地がよく歩きたくなるまちの実現を目指します。

<取組の方向>

- a：安全・快適な歩行者動線を確保する。
- b：憩いやにぎわいの場としての道路空間の柔軟な利活用を検討する。
- c：居心地が良く、歩いていて楽しいと感じる空間形成を図る。

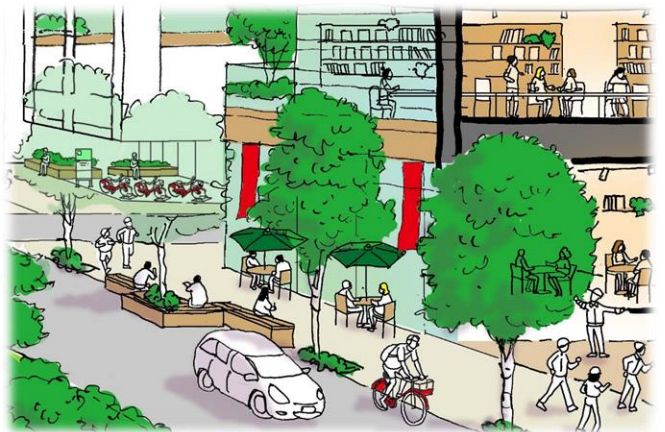


## 将来像⑧【円滑な移動環境】 東西に長いはぐくみの軸を 円滑に移動することができる

はぐくみの軸は東西に長く、徒歩のほか、自転車、自動車、地下鉄、バスなど、多様な移動手段を選択できる場所です。周辺の自動車交通量など以前と比較して交通環境が変化していることなどを踏まえ、以下の取組により、はぐくみの軸における円滑に移動できる環境の実現を目指します。

<取組の方向>

- a：エリア内を円滑に移動できる環境を整備する。





## 将来像⑨【資源を活かした景観】 歴史的資源などを活かした はぐくみの軸ならではの景観が形成されている

大通公園や周辺の歴史的資源は、景観・観光資源としても高い価値があります。今後新たな建物などにより景観が更新される際は、以下の取組を通じて、健全な高度利用と良好な景観形成の両立が図られた、はぐくみの軸ならではの景観形成を目指します。

<取組の方向>

- a：大通公園や周辺の歴史的資源、大通沿道の街並みとの調和を考慮した、一体感のある景観形成を図る。
- b：屋外広告物の掲出にあたって大通沿道の景観に配慮する。



## 将来像⑩【連続的につながるみどり】 大通公園を中心に 連続的にみどりの空間が形成されている

はぐくみの軸では、大通公園などの都心の豊かなみどりを活かした都市のブランド力向上を図ることが可能です。以下の取組により、都心の魅力を高めるみどりが連続していくまちを目指します。

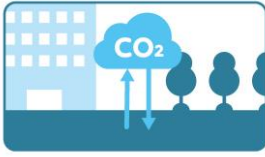
<取組の方向>

- a：周辺のまとまったみどりや大通公園とのネットワーク強化を図り、みどりの質と量を向上させる。
- b：大通公園と沿道のみどりとの一体的な繋がりを創出する。





### Ⅲ. 持続可能なまちづくり

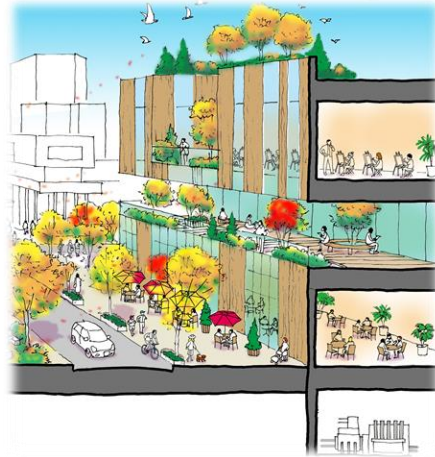


#### 将来像⑪【脱炭素化の推進】 2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた 先進的な取組が進められている

地球全体の課題である脱炭素化に向け、札幌市では令和2年（2020年）にゼロカーボンシティ宣言をしています。大通沿道で進む建物の更新の動きと連動して、以下の取組により脱炭素化を進め、持続可能な発展を目指します。

<取組の方向>

- a：建物の環境性能向上や、エネルギーネットワーク<sup>29</sup>活用によるエネルギーの有効利用を図る。

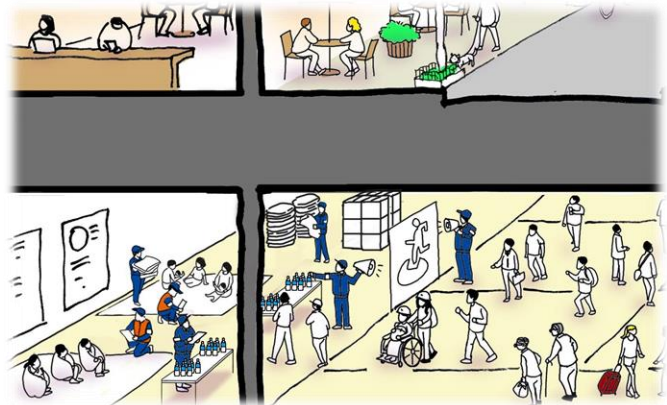


#### 将来像⑫【防災機能の強化】 はぐくみの軸の防災機能が強化されている

札幌市では、平成30年（2018年）に発生した北海道胆振東部地震において大規模停電によるブラックアウトを経験し、災害に強いまちづくりの重要性を再認識しました。以下の取組により、はぐくみの軸の防災機能を強化していきます。

<取組の方向>

- a：施設の防災性能向上を図る。  
b：地域主体の防災の取組を進める。



<sup>29</sup>【エネルギーネットワーク】地域熱供給（一定の地域内で冷房、暖房、給湯などの熱需要を満たすため、1か所あるいは数か所の熱供給設備で集中的に製造された冷水、温水、蒸気などの熱媒を、熱導管を通じて複数の建物へ供給するシステム）の熱導管や配電線、通信線などをネットワーク状に整備し、情報通信技術を用いて効率的なエネルギー利用を図るシステム。

